

○6番（菊池勝美議員） 6番菊池勝美でございます。ただいま議長より発言のお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

私は、「地域の声を大切に」をモットーとしておりまして、今回の質問につきましても、大きくは2点であります。地域の皆さんの声であります。

最初の項目は、带状疱疹についての带状疱疹ワクチン接種費用の助成についてであります。市の考え方を伺います。

带状疱疹については、ご案内のとおり、日本人成人の90%以上は带状疱疹の原因となるウイルスが体内に潜んでいると言われており、50歳代から発症率が高くなり、80歳までには約3人に1人が発症すると言われております。带状疱疹は、多くの人子どもに感染する水ぼうそうのウイルスが原因で発症し、水ぼうそうが治った後もウイルスは体内に潜伏しており、過労やストレスなどで免疫力が低下すると、再びウイルスが活発化して带状疱疹を発症するというものであります。

発症しますと、皮膚の炎症だけでなく神経にも炎症を起こし、激しい痛みで襲われ、神経の損傷がひどい場合は皮膚の症状が治った後も痛みが続くことがあり、50歳以上で带状疱疹を発症した人のうち約2割の人が、3か月以上も痛みが続くというふうに言われているようであります。

带状疱疹は50歳以上の人に多く発症するため、50歳以上の人は带状疱疹ワクチン接種の対象となっておりますが、ワクチンを接種することによって、発症の予防効果、また、発症した場合でも症状を軽くする効果が期待できるものと言われております。

今年の4月の新聞によりますと、带状疱疹ワクチン接種費用の助成が、茨城県内では、石岡市、小美玉市、美浦村、そして筑西市の4自治体において4月から始まっております。また、過去において新型コロナウイルス感染症に感染した50歳以上の人は、带状疱疹の発症リスクが高まる可能性があるというイギリスの製薬大手の研究発表も掲載をされておりました。

さて、宝島社発行の「田舎暮らしの本」、今年の2月号ですが、この本によりますと、住みたい田舎ベストランキングにおいて、常陸太田市が北関東エリア、これは人口に関係なく、北関東エリアで、子育て部門では第1位、総合部門でも第1位に輝いております。さらに、全国の人口3万人から5万人未満の自治体では、子育て部門で第4位、総合部門でも3位という快挙であります。さらに、常陸太田市では今年度、市内の全中学生に対して、市内の全てのバス停において自由に乗降できるフリーパスを配布する事業を全国で初めて実施をするものであります。

このような常陸太田市の状況でありますので、ぜひとも茨城県内で第1号として実施をしていただきたかったのでありますけれども、先ほど申し上げましたように既に4自治体で助成を始めております。これは市のイメージアップにもつながり、大変重要であると認識をしております。ぜひとも助成をお願いしたいというふうに思うわけであります。

昨年6月の定例議会では、同僚議員が同様の質問をされました。そのときの答弁は、「茨城県内においては接種費用を助成している市町村はない。全国的には、接種費用の一部を助成している自治体があることは認識をしている。今後、ほかの自治体の状況について情報収集を行いながら調査・研究をしてまいりたい」という答弁をされております。

そこで、お伺いをいたします。本年度、既に4自治体が接種費用の助成を開始したことについてはどのように理解をされているのか。また、先ほども申しあげましたように、「田舎暮らしの本」住みたい田舎ベストランキングでは上位にランクされているわけであり。これからも常陸太田をアピールする意味でも助成を始めてはどうか、ご所見をお伺いいたします。

続きまして2項目めです。山林や耕作放棄地等における竹林対策について、2点をお伺いいたします。

まず1点目は、放置竹林への対応についてお伺いいたします。

林野庁によりますと、全国の森林面積は2017年には16万7,000ヘクタールとなり、2007年からの10年間で約7,500ヘクタール増えております。その大部分が放置竹林と言われております。これは、中山間地域に暮らす住民の方々の高齢化が進み、竹林の管理が手薄になってきていることが要因だと言われております。

本市におきましても、特に中山間地域においては放置竹林が目立ってきている状況であります。耕作放棄地となった畑が竹林に隣接していれば、竹の侵入は早いものですから、間違いなく一、二年で放置竹林になってしまいます。スギやヒノキなどは10メートル成長するのに約20年ぐらいかかりますが、竹の場合には二、三か月で10メートルぐらいは成長します。また、竹は地下茎が1年に七、八メートルも伸びることから、繁殖の範囲が広く、また成長が早いと言われております。

そこで、竹の利活用について、幾つか事例を紹介したいと思います。

福岡県の糸島コミュニティ事業研究会などが立ち上げました準国産メンマプロジェクト、これに参加している団体が、令和3年6月現在、全国で35府県に拡大している状況であります。このプロジェクトに参加している千葉県のNPO法人は、令和2年度、メンマを五、六トン製造販売、さらに令和3年は約20トンものメンマを売り上げたという状況であります。

常陸太田市の道の駅では、金砂郷地区の企業が製造したメンマを僅かではありますが販売をしております。令和2年の11月から昨年の11月まで2年間ではありますが、売上げが数万円程度だということでありました。また、常陸大宮市の道の駅かわプラザでは、同じ地区で竹林整備を行っている久慈岡共有竹林組合がタケノコを収穫し、それを道の駅で買い上げて、メンマの製造は土浦市の食品加工会社に委託をしております。1袋、これは100グラム入りですけれども、令和2年は1,300袋、令和3年が2,300袋、昨年が1万6,000袋を販売しております。

竹林問題に取り組む九州循環共生協議会では、販路づくりが課題ですけれども、地域資源を生かし雇用を生み出す商品は、国連の持続可能な開発目標、いわゆるSDGsにも合致しており、売り込みやすいということをお話されております。

また、お隣の栃木県茂木町では、牛ふんや落ち葉などを堆肥化し、循環型社会構築を目指して、山林を荒らす竹を粉碎し、堆肥に入れております。これは、道路脇に倒れて放置されていた竹の処理がきっかけでありまして、2009年から堆肥に竹を粉碎して入れており、これは竹に多く含まれる乳酸菌が放線菌や糸状菌などの働きを活性化させるため、できた堆肥は土がふかふかに

なるという評判で、令和元年現在ですが、年間1,500トンが町内外で使われております。さらに、竹自体が土にいいということが分かってきたため、土壌改良剤としても商品化され、ニラの収穫量が増加しているという検証結果が出ている状況であります。

また、茨城県つくば市の森林総合研究所では、インフルエンザウイルスに対して、竹からの抽出液が市販されている消毒用エタノールと同等の消毒効果があることを確認しております。さらに、竹の抽出液は、消毒効果のほか、肌に優しく皮膚の炎症を抑えるため、アルコールでかぶれやすい人、また、子どもたちにも気兼ねなく使用できると言われております。これには、管理のゆきとどかない竹林が増える中、抗菌剤として高付加価値な商品を地方で生産できれば、竹の山が宝の山になる日も近いというふうに期待を寄せているようであります。

また、愛知県農業総合試験場では、乳用牛の飼料として竹を活用する技術を開発いたしました。農水省の統計では、搾乳牛1頭当たりの経営コストのうち、飼料代が、これは令和3年現在でありますけれども、北海道で約45%でありますので、北海道を除き飼料畑を確保しにくい都府県では、その割合はさらに高まるものと考えられております。同試験場では、放置竹林が全国各地で問題になっているが、未利用資源の有効活用に加え、輸入飼料への依存度を減らすことにもつながるといふことで、大変期待をしているようであります。

岡山県倉敷市は岡山県内で一番のタケノコの産地であり、市内にある家具メーカーでは、日本で唯一竹の集成材を使った家具を生産しております。日本デザイン振興会においてグッドデザイン賞を受賞するなど評価も高く、海外の顧客も多く、地域では竹は資源として見直され、竹の集成材を広めて竹循環型社会の実現を目指しているというものであります。

さらに、これは堆肥の関係ですけれども、広島県安芸高田市の堆肥センターでは、やはり放置竹林の解消に竹チップ堆肥の利用を広げております。年間約1,500トンを製造し、市内の農家約200戸に提供をされているほか、全国にも販売を始めたということでもあります。市内の農家は、市の補助金を活用して安く買えるというようなことでもあります。竹を資源化し、竹チップ堆肥の利用拡大により放置竹林の管理もよくなり、伐採で見通しがよく、イノシシなどの獣害の減少も期待をできるということでもあります。今、申しましたように現在は全国に販売したり、ふるさと納税の返礼品などにも販路を広げているということでもあります。

いろいろ全国の事例のごく一部を申し上げましたが、これら放置竹林に対しての市の対応についてをお伺いいたします。

2点目ではありますが、竹粉碎機の導入及び市民への貸出しについて、お伺いいたします。

近隣の市町村においては、竹の粉碎機を導入し、一般市民に対し無償で貸出しをしている現状があります。ご案内のように竹の処理は大変厄介なものであります。そこで、先ほど来申し上げておりましたが、嫌われ者、厄介者、これらが変わるかもしれない、こういう現状を捉えまして、ぜひとも竹粉碎機を導入の上、市民に対する無償にての貸出しをお願いいたしたく、ご所見をお伺いいたします。

以上、1回目の質問を終わります。ご答弁をよろしくお伺いいたします。

○藤田謙二議長 答弁を求めます。保健福祉部長。

〔中嶋みどり保健福祉部長 登壇〕

○中嶋みどり保健福祉部長 带状疱疹についての、带状疱疹ワクチン接種費用の助成についてのご質問にお答えいたします。

带状疱疹ワクチンは、平成23年3月に認可された乾燥性弱毒性水痘ワクチンと平成30年3月に認可された不活化ワクチンであるシングリックス、この2種類があります。どちらのワクチンも任意接種として50歳以上の方が対象で、接種費用は1回につき約1万円から2万円前後となっております。

昨年度まで茨城県内において带状疱疹ワクチンの接種費用の助成を行っている自治体はありませんでしたが、菊池議員のご発言にもございましたように、今年4月から4つの市村——石岡市、小美玉市、筑西市、美浦村で3,000円から1万円と、一部助成が開始されたことは認識しております。

なお、市内医療機関における带状疱疹の罹患者数を調査しましたところ、1医療機関につき月平均で2から3名の方が受診されている状況です。

本市におきましては、健康で快適な市民生活の実現に向けて、現在、がんの早期発見・治療に向けて、肺がん、胃がん、大腸がんの3大がんの検診受診率の向上に取り組んでいるところでございます。また、带状疱疹ワクチンを含め予防接種全般として、接種後の副反応、健康被害が社会的に問題になることも多いため、国の定期接種化に向けた動向を注視するとともに、近隣を含め、ほかの自治体の動向も踏まえながら調査・研究してまいりたいと考えております。

○藤田謙二議長 農政部長。

〔岡田和也農政部長 登壇〕

○岡田和也農政部長 竹林対策について、2点のご質問にお答えをいたします。

1点目の放置竹林への対応についてでございますが、国内の竹林は近年、住民の高齢化や生活用品、建築資材等としての国産竹材の利用減少、さらには輸入材、輸入タケノコの増加等により有効活用されていない状況にあり、伐採等の適正管理がなされないことに起因する竹害が社会問題になっており、本市におきましても、山林内の竹の繁茂や耕作放棄地等に竹が侵入する箇所が増加をしております。

山林や耕作放棄地の竹林につきましては、「森林経営管理法」や「農地法」に基づき、基本的に所有者自らが管理することとなっておりますことから、本市ではこれまで、竹林を含む森林及び農地の適正な管理の必要性につきまして、市民へ周知をしてきたところでございます。しかしながら、議員ご指摘のとおり、本市における高齢化の進展等を考えますと、竹害への対策について検討が必要と考えております。

現在、森林の持つ多面的機能の維持や温室効果ガスの排出削減、災害防止等の観点から、森林環境譲与税を活用し、市面積の4分の1を占めるスギ、ヒノキ等、市有の人工林整備を優先的に進めているところでございますが、放置竹林の整備につきましても、この森林環境譲与税の活用を含め、新たに事業を実施することが可能か検討してまいりたいと考えております。

次に、竹粉碎機の導入及び市民への貸出しについてでございますが、議員ご発言の近隣市町村

において、竹林整備と竹資源の有効活用のため、竹粉碎機を導入し、地域団体等に貸出しを行っている事例につきましては、承知をしております。

本市といたしましても、竹粉碎機導入を含む竹林の管理につきましては、主体的にご活動いただける市民や団体等のご意見・ご要望を把握するなど、調査・研究を進めてまいります。

○藤田謙二議長 菊池議員。

〔6番 菊池勝美議員 質問者席へ〕

○6番（菊池勝美議員） ご答弁ありがとうございました。2回目ではありますけれども、今回は要望とさせていただきます。

今の带状疱疹ワクチンの予防接種の件でありますけれども、ご答弁の中に、国の定期接種化に向けての動向を注視していくと、さらに、助成を開始した自治体の取組状況や近隣の自治体の動向等々について調査・研究をされるとのご答弁をいただきました。

また現在、市で、結婚、出産、子育て、家賃助成やおむつ代の助成、さらに子どもさん方の医療費、給食費、保育料等々、子育て世代、若者世代に対して助成をしている現状を考えれば、今回は、高齢者に対しての助成も選択肢の一つではないかなと考えたところでございます。今後、できるだけ早い時期に带状疱疹ワクチン接種費用の助成が開始されることを強く要望いたします。

2項目めの山林や耕作放棄地等における竹林対策についてでございますけれども、いろんな事例をごく一部申し上げましたが、この中で、市と農業者が取り組める可能性があるものについてはぜひ検討をいただきまして、ご支援をお願いしたいというふうに考えております。また、本市の自然環境や農業環境、さらに有機農業の推進を考えると、特に耕畜連携が重要ではないかというふうに考えます。繁殖牛、肥育、乳牛等々、畜産農家もあることですので、これら総合的な利活用を図る観点から、堆肥と竹の有効活用、これらをぜひ推進していただければと要望いたします。

併せまして、竹粉碎機の導入につきましても調査・研究ということではありますが、実際、近隣の自治体で既にやっている現況があるわけですので、ぜひとも実施の方向で検討されるようお願い申し上げます。

以上で、私の一般質問は終わります。ありがとうございました。